

◆ご親教「日進月歩」◆

# ただ生きる 生きる源

## 一向口唱

導師 現楠

信行指針

ただ生きる

生きる源 みなもと

一向口唱 いっこうくしょう

令和八年元旦

獅子吼会 導師 現楠 彦

皆さま、ありがとうございます。

今月号から「明日への指針」を引き継ぐにあたり、新しく「日進月歩」にっしんげつぽといたします。

はなは甚だ未熟ではありますが、どうぞよろしくお願いたします。

さて、昨年は巳年みでした。巳とは、十二支の六番目、蛇へびを意味しています。蛇は、皮を脱ぎ捨て、新たな姿に生まれ変わることから、古来、再生や永遠の象徴とされています。

そうしたことから、昨年は「再生」「新しいことが始まる年」「成長」「変革の年」と言われていました。

獅子吼会にとつても、まさに昨年は「新しいことが始まる年」となりました。すなわち、法灯ほつとうけい継承式ししょうしきが執り行われました。

「再生」「成長」「変革」のスタートを切った年だったのでないでしょうか。年が明け、今年うまは午年です。午は十二支の七番目です。

成長や成功、繁栄のシンボルとして縁起が良いとされています。

そうしたことから、今年うまは「エネルギーに満ち、目的に向かって活動的な年」と言われています。

そこで今年うまは、精力的かつ慎重に「教化きょう化ご弘通くわつう」という目的に向かって歩みを進めて参りたいと思います。

「人間万事塞翁が馬」という中国のことわざがあります。

塞翁さいおうという人が飼っていた馬が逃げ出し行方不明になってしまったため、人々が慰なぐさめに行きました。すると塞翁は「このことが、幸いをもたらすやもしれない」と言い、悲しむ様子はありませんでした。

その後、逃げた馬が、立派な馬を連れて帰って来たのです。

喜ぶ人々を前に塞翁は「これが災もといの基になるやもしれない」と言いました。その通り後日、塞翁の息子がその馬に乗っていたところ落馬し、足を骨折してしまいました。人々に塞翁はまたしても「これが幸いをもたらすやもしれない」と言いました。

間もなく、異民族が攻め込んできて戦争が始まりました。

しかし息子は、骨折していたため、兵役を逃れ、戦争で命を落とさずに済んだというお話です。

人の幸、不幸は予測することができません。

一見幸せに見えることが、後に不幸に転じたりします。

逆に、不幸に見えたことが、後に幸福になるかもしれません。

今年も嬉しいことがある反面、つらく悲しいことがあるかもしれません。

お互いさま、一喜一憂することなく、さらなる教化ご弘通に向かつて、馬

のごとくの勢いをもって、今年一年精進して参ろうではありませんか。

昨年、恩師日正猊下は信行指針、

「生きる ただ生きる それでよし」

をお示しになりました。

——大したことができなくても良い。ただ生きる。身体を動かし、心を動か

すということ。何よりも、息ができるということ。これは当たり前ではない、

すばらしいこと。生きるだけで価値がある。立派なことを成し遂げている。

置かれた場所で、堂々と生きて行こうではないか。——

と、お説きになりました。このお言葉は、どれだけご信者さまの心に響き、

励ましとなったか計りしれません。

そこで今年の信行指針は、

「ただ生きる 生きる源 一向口唱」

といたしました。

これは、昨年の恩師猊下の信行指針を継続するものです。

生命の崇高さを考えたとき、生きとし生けるものは皆唯一無二の存在。

ただ生きていられるだけで価値や意味があり、立派なことを成し遂げている。

この気づきを得られたのは、正しいご信仰があればこそです。

とかく「ただ生きる」と言う「勝手気ままに生きる」と捉えがちです。

しかし、そうではなく「喜びに思いを変える」「反省・感謝・努力」「化他即自行」

など、正しい教えが根本にあり、その上に「ただ生きる」があるのです。

今年一年、さらなる信行精進をはかり、全力で一日一日を生ききろうでは

ありませんか。

そして、できるならば「教化ご弘通」という獅子吼会の大目的に向かって、

邁進していききたいものです。

ありがとうございます。